

第2回藤沢市住宅都市地域コミュニティ調査委員会議事要旨

1 日時

2016年11月10日（木）午前10時30分から正午まで

2 場所

総合防災センター4階 災害対策本部室

3 出席委員

大江委員長，松本副委員長，宮垣委員，倉持委員，本田委員，岩崎委員，金子委員，高梨委員，井出住宅課主幹

4 議事

(1) 調査研究の中間報告について

事務局から資料1～7に基づき，調査研究の中間報告について説明した。

（質疑等）

委員 ソーシャルキャピタルとコミュニティソーシャルワーカー（以下、CSW）に関する記載については，概念的なところがあるので，調査結果の前に示す論理構成とする方が望ましい。

委員 最後のまとめと調査結果のつながりが希薄であるので，仮説，調査，結論の一貫性，論理性を強調した方が良い。労働，健康，学習等の分野の調査が弱いので追加をした方が良い。

事務局 居場所の「場」を強調したので，これに加え，機能，取組内容を強調していく。地域の中での働きや学び合い，健康に対する支援が居場所の中の役割として出ている。講座，学習支援等を追加して記述していく。

委員 「働く」という言葉が労働に帰結しやすく，狭く聞こえてしまうので，もう少し幅広い概念を示した方が良い。

委員 CSWと民生委員の違いは。

事務局 民生委員の活動はケースワークに近く，困りごとを抱えている人に対して問題を解決する割合が多い。高齢世帯の増加，貧困世帯等の課題を地域の課題として捉えて地域づくりの概念に移行するためにはCSWの取組が必要である。

委員 資料1・目的(2-1)のところの言い回しなど、全体を通した言葉遣いとして、もっと分かりやすい表現にした方が良い。また、担い手論が様々な部分に記載があるが、具体的にどのような人材がコミュニティの形成、運営に関わると想定するのかをもう少し固めるべきである。

委員 住宅、居場所等のハード面と人材というソフト面を章立てとした方が良い。また、担い手を確保するうえで何かしらの報酬はあるべきであり、コスト面、財源面での調査結果、方向性にも言及していただきたい。方向性として、負担があることやどの程度コストが発生するかなどを示していくと良い。

事務局 コスト面については、ケース毎に整理して対応していきたい。

委員 この報告で全てを示すのは難しいが、報告書を作成する際には、市民が読むものとして取りまとめていただきたい。取組のプレーヤーを明らかにし、報告書の読者が実行できる、もしくは実行に向けて検討ができるようにしていただきたい。マネジメントの観点を取り入れていくべきである。

委員 誰がどのような運営をしているかという記載はとても重要であり、どのように継続、運営していくか伝わる報告書だと良い。主体を見ると老人会など地縁組織が多いが、社会福祉法人や創業者等、コミュニティビジネスに繋がるものにしてほしい。他市事例では、創業者がビジネスの視点で居場所を形成し、新しい形のコミュニティづくりに寄与しているところもある。見せ方としての工夫があると良い。

委員 藤沢市や神奈川県と連携し、経済産業省の補助を受け健康寿命延伸産業創出推進事業をしたところ、パルロ体操の実施により新たなコミュニティが形成された事例がある。他にもパルロを活用した事例があるので、報告書に盛り込んでいただければと思う。

委員 資料1のポンチ絵(10ページ)の担い手については、市民に限定せず、団体等も表現していくべきである。

委員 市民や団体だけでなく、行政も関わっていくイメージを作っていくべきである。

委員 地域がやらされ感を感じない方法論が必要である。空き家活用のモデル事業、公共施設の有効活用の進め方、マクドナルドとのパートナーシップ協定等を事例を含めて示し、活用しやすい環境整備が必要である。

委員 持続可能なコミュニティの形成として、現にあるものを調査しているが、持続性という点にフォーカスしていくことが必要である。これまでのコミュニティの研究としては、横浜市では地縁型、テーマ型に分類していたが、主体論には言及していなかった。持続性を中心に考えた時に、ミッション型のようなコミュニティが形成されつつあると感じている。地縁型はミッションの飽和が見られ、テーマ型は増えているが、地域課題からは離れてしまうことや持続性に課題がある。ミッション型という共通の地域課題認識と課題解決手法における楽しさややりがいの創出、様々な資金獲得手法へのアプローチ、アイデアの注入（アドバイザー）によって、現有又は潜在化した地域力を発揮し、持続性を有するように、具体的な記載にしていくべきである。

委員 藤沢らしさを出して、やる気を創出させることが必要である。

委員 固有性は出しづらいが、藤沢には農業があり、就農、援農というアプローチの余地がある。

委員 洋光台ルネッサンスの取組も参考にしてほしい。

委員 ミッション型コミュニティについて、NPOと地域の隔たりが課題である。CSWのアプローチになるかもしれないが、どのようにつなぐかの視点を取り入れて欲しい。また、行政の役割も明確化していくことが必要であり、そこで藤沢市のカラーを出していくことが重要である。ただし、行政の関与によって自由度がなくなっていくことも事実であるので、そうしたところを緩和する「緩さ」に藤沢らしさを見出していくことが望ましいのではないかと。

(2) 今後のスケジュールについて

事務局から資料8に基づき、奈良県生駒市で開催されるシンポジウムの概要について説明するとともに、当該シンポジウムに参加することを報告した。

(3) その他

委員等の日程調整の結果、第3回委員会については、2017年1月23日（月）午前10時から正午の間で行うこととした。場所については、後日調整の結果、第2回委員会と同様に総合防災センター4階災害対策本部室で行うこととした。

以 上